

水陸萬頃

第6号

奥州農業改良普及センター TEL: 0197-35-6741 FAX: 0197-35-6303
 いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



※水陸萬頃とは

「続日本記」によると、胆江地域は「水と土地が豊かなところ＝水陸萬頃」と記されている。

ニューファーマーズ!!!

新規就農者や新米農業者、若手農業者グループが奮闘する姿をシリーズで紹介するコーナーです。

今回は、江刺の「トマト若手勉強会」の活動をご紹介します。この勉強会、30代前半から40代前半の8名で活動しています。昨年までは、ベテラン生産者が指南役となり、トマトの生理生態から栽培管理の要点、病虫害防除の留意点等をテーマに開催してきました。

今年は若手生産者自らが企画・立案し開催することとし、6月4日には、江刺管内で広く発生し、対策が急務である「トマト褐色根腐病※」をテーマに勉強しました。

はじめに、発生状況や対応策、複合耐病性台木特性等の情報を全員で共有し、個別巡回しました。以下、当日の概要を紹介します。

- 有機物を施用し生物性改善による発病軽減効果をねらいとしたハウスでは萎れがなく、根部褐変も確認されませんでした。
- 複合耐病性台木を導入したハウスでも、抜取り調査で褐変は見られませんでした。萎れ株が散見されたため、かん水の見直しと土壌調査を行うこととしました。これらの結果を取りまとめ、次作の対策とするところ

です。
 今回は荒天で、参加者が少なかったものの、難防除土壌病害対策やトマト肥培管理等の情報交換も活発に行われ、参加者からは有意義であったとの声が多く聞かれました。さあ、早速、次回開催に向けて準備開始です！

※ トマト褐色根腐病

土壌中に生息する糸状菌（カビ）による土壌病害で低温期に発生する。発生すると根部が褐変し地上部が萎れるのが特徴。



若手の皆さん、真剣です



根部を確認しています

7～9月の作物ワンポイントアドバイス

水稲

- ・生育がやや早まっています。生育ステージ（幼穂形成期（幼穂長2mm）、出穂期）をしっかり確認しましょう。
- ・いもち病の早期発見に努め、防除対策を講じましょう。
- ・カメムシは出穂10日前までに畦畔の草刈りを実施すると効果的です。畦畔の雑草が出穂する前の草刈りを実施しましょう。
- ・出穂以降の高温は、白未熟粒等の高温障害が心配されるため、間断灌がい等により土壤水分を保ち、地温の低下に努めましょう。

大豆

- ・生育期の除草剤散布は、発生する草種や発生量を確認し、効果のある剤を遅れずに散布してください。
- ・紫斑病防除では、QoI剤やDMI殺菌剤は耐性菌の発生リスクが高いため、2～3年に1回の使用にとどめてください。

野菜

- ・豪雨に備え、明渠や暗渠の詰まりを確認する等、排水対策を徹底しましょう。
- ・こまめなかん水管理を行うとともに、収穫量、気象条件などを考慮した追肥を行い、草勢を維持しましょう。
- ・ハウス果菜類では生育が旺盛となり、風通しが不良になってきますので、整枝や摘葉、誘引作業を遅れないように実施しましょう。
- ・病虫害防除を徹底しましょう。

果樹

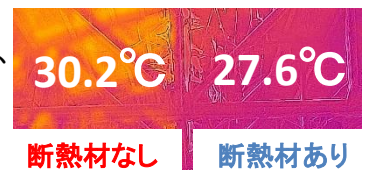
- ・仕上げ摘果後も随時見直し、できるだけ肥大・形状の良い果実を残しましょう。
- ・凍霜害、降雹害で正常な果実が不足する場合は、肥大・形状が劣る果実でも樹体生育とのバランスを保つために結実させましょう。これらの果実は8月以降に摘果します。
- ・着果数が少なく、樹体生育が旺盛な場合は、誘引、徒長枝の剪除で受光体制を良くし、花芽形成を促しましょう。

花き

- ・褐斑病、葉枯れ病の発生が例年より多くみられます。防除暦を基本とし適期散布に努め、場合により追加防除も検討しましょう。
- ・収穫後のりんどうは次年度の株の充実を図るために、収穫後防除の継続や養成茎の花蕾の摘み取りを行いましょう。
- ・小ぎくは、次年度の親株選抜に備え、収穫前に草丈の伸び、草姿、生程度をよく観察し、目印をつけましょう。

家畜

- ・新鮮な水がいつでも十分飲めるよう、給水器はこまめに掃除し、換気扇や寒冷紗を活用して暑熱対策を徹底しましょう。
 - ・右の画像は牛舎内部をサーモカメラで撮影したものです。こちらの牛舎では、既存屋根の上から断熱材入りの屋根材を右側から設置中で、断熱材のあるところとないところでは、温度が約3℃低下しており、輻射熱が遮断されている様子がよくわかります。
- 今後の暑熱対策に、ぜひ断熱材の追加も検討してください。



令和3年度農業農村指導士責務解除者の紹介

今年度、岩手県農業農村指導士期間満了を迎えた指導士の方は県内で20名、そのうち奥州管内では江刺の及川貢さん、高橋弘一さん、衣川の高橋一男さん、胆沢の千葉孝子さんの4名です。

及川貢さんは水稻とミニトマトを経営し、JA江刺野菜生産部会の会長や専門部幹事、胆江地方農業農村指導士会長を歴任されました。高橋弘一さんはきゅうり、トマト、水稻、大豆、果樹と多品目を経営し、地域の担い手育成にも御尽力いただきました。

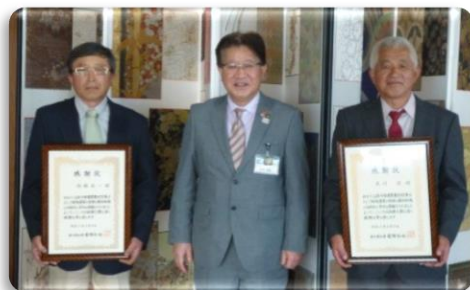
お二人は4月27日奥州市長を表敬訪問し、現在までの活動を報告、奥州市長から「若い生産者のお手本として、今後も頑張ってください。」との激励を受けました。

高橋一男さんはりんどう、水稻、繁殖牛の複合経営を行い、りんどうはハウスと露地栽培を組み合わせ、作期を拡大したりオリジナル品種の開発に取り組む等、精力的に活動しています。

6月3日、佐藤明子所長から感謝状を伝達した際にも、ハウスりんどうを見せて頂き、りんどうについて熱く語っていただきました。

千葉孝子さんは和牛繁殖と水稻経営に取り組まれています。「奥州・金ヶ崎モーモーレディース」の初代会長として、胆江地域の和牛、酪農を経営している女性の皆さんで牛飼いの魅力を伝えたり、地域を元気にする活動にも積極的に取り組まれました。

普及センターでは今後も4名のお力を借りながら、管内の農業振興を図っていきます。



高橋弘一さん、小澤市長、及川貢さん



高橋一男さん

収入保険の加入をおすすめします

春先の霜害や降雹など、今後も自然災害や気候条件の変動による農業被害の発生が予想されます。

そんなときのために、収入保険への加入を検討しましょう。

加入できるのは、青色申告を行っている農業者（個人・法人）で、対象となる収入は農産物の販売収入全体です（肉用牛、肉用子牛等を除く）。

詳しい内容は、岩手県農業共済組合胆江地域センター（電話25-6631）へお問い合わせください。

自然災害や病虫害、鳥獣害などで収量が下がった



市場価格が下がった



災害で作付不能になった



けがや病気で収穫ができない



倉庫が浸水して売り物にならない



取引先が倒産した



盗難や運搬中の事故にあった



輸出したが為替変動で大損した



農作業安全・熱中症に注意！

管内では残念ながら農作業事故が発生しています。事故は朝夕だけではなく、日中も発生しています。農作業事故は急いでいる時、心にゆとりがない時に起きます。「全集中 ゆとりの呼吸で 安全作業」を合言葉に、農作業事故を防ぎましょう。

～最新“楽楽”技術の紹介③～「トラクターGPS」

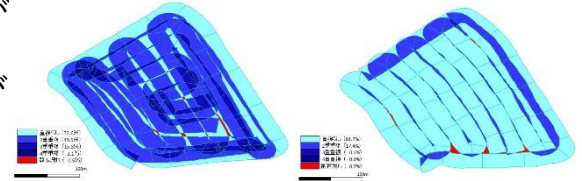
労力を軽減する最新の省力化技術、今回はトラクターGPSについてご紹介します。

大規模な草地や圃場では作業員の目測と経験を頼りに作業が行われるため、肥料などの散布ムラなどが生じがちです。ムラをなくすために何度も周回を繰り返すと、今度は作業時間や労働負担の増加に繋がってしまいます。

そこで、トラクターGPSを使用すると、モニターで作業済の部分が色付けされるため、ムラがなく効率的に全体を処理できます。岩手県農業研究センター畜産研究所の試験では、作業重複面積や散布漏れ面積が半分以下になったという結果がられています。

また、利用者からは「作業済部分が見えるのは漏れがなくて良い」との声を頂いています。

詳細は、普及センターまでお問い合わせください。



左図：GPSなし 右図：GPSあり 重複する度に青が濃くなる

胆江地方ニューファーマー大募集！

胆江地方農林業振興協議会では、主要品目（ピーマン、きゅうり、トマト、りんどう、りんご、水稻）で新たに就農を希望する方を募集し、「胆江地方ニューファーマー」として重点的に応援しています。

お近くに就農を考えている方がいましたら、是非普及センターまでお知らせください！

就農相談窓口の日

○時期・期間

毎月第2木曜日(①13:30～、②15:00～)

○内容

就農に向けた相談や情報収集したい方に対して、関係機関の担当者をご相談に対応します。

○申込方法

相談日の3日前までに、事務局(普及センター)にお申し込み下さい。

野菜先進事例・農作業体験研修

○時期・期間

5～10月(全5回)

○内容

先輩農家の話が聞けたり、実際の農作業を体験できる研修会を開催します。

○申込方法等

具体的な開催時期等は事務局(普及センター)にお問い合わせください。

明子の部屋

～佐藤明子所長のつぶやき～



所長の佐藤明子です。今回からミニ情報コーナー「明子の部屋」を掲載させていただきます。どうぞよろしくお願いします。

さて、早いもので着任して3ヵ月が経過しました。この間、コロナ禍においても基本的な対策を徹底しながら、総会等が開催されるなど、地域の農業が動いてきました。その中のひとつに「江刺金札米100周年記念実行委員会」があります。今年は、江刺金札米の誕生から100周年の記念の年で、私も実行委員の一人なのです。

先日、江刺金札米の米俵に包入された当時の大黒様の銅像が確認された報道もありましたが、実行委員会では江刺金札米にゆかりのある品々を集めた臨時の博物館を開催する予定です。

ついでに、昔の江刺郡農会や県農事試験場胆江分場等の資料や、当時の米俵に付けていたであろう札等が、皆様の蔵や倉庫に眠っていませんか？何かありましたら御一報をお願いします。

新型コロナウイルス感染症に係る農林水産相談窓口を県南広域振興局農政部（0197-22-2841）および奥州農業改良普及センター（0197-35-6741）に設置しています。

また、昨年末の大雪被害に関する技術対策の相談にも対応しています。